

Kontyû, Tokyo, 42(2): 202-203. June 25, 1974

コクロヒメテントウの学名について

佐々 治 寛 之

福井大学教育学部生物学教室

Hiroyuki SASAJI: Identity of *Scymnus hilaris* auct. (Coleoptera, Coccinellidae) in Japan

Synopsis *Scymnus* (*Pullus*) *ishidai* M. ARAKI, 1963, was originally described under the subgenus *Scymnus* s. str. and rejected as a junior synonym of *hilaris* by SASAJI (1971), but it should be restored as a valid name for a Japanese *Scymnus*-species which has long been identified as *S. hilaris* MOTSCHULSKY by almost all the authors. The true *hilaris* is not distributed in Japan.

コクロヒメテントウなる和名で呼ばれる虫は日本各地（琉球を除く）に広く分布し、日本産ヒメテントウ類中の最普通種で、アブラムシ類の天敵としてもよく知られている。今まで *Scymnus* (*Pullus*) *hilaris* MOTSCHULSKY, 1858 という学名が用いられてきたが、最近ソ連邦の IABLOKOFF-KHNZORIAN (1972) が *hilaris* MOTSCHULSKY のタイプ標本を検して、再記載・図示したのを見るとコクロヒメテントウとは似ても似つかぬ種であることが判明した。同氏は筆者（当時神谷, 1961）の *hilaris* にあてたものと異なることを指摘しているが、それ以上のことについては言及していない。したがって、コクロヒメテントウには別の学名を当てねばならなくなった。*Scymnus hilaris* はインドから記載されたものであるが、MOTSCHULSKY の簡単な記載だけからは正確に把握することはむずかしい。日本からの記録は、1879 年 WEISE が、おそらくコクロヒメテントウに相当する種を *hilaris* と同定して報告したのを最初とする。ちなみに、WEISE は、生涯に百余編のテントウムシ類に関する論文を発表した斯界の第一人者である。のちに別種として追加された酷似種を混同している可能性はあるが、その後、LEWIS (1896) も WEISE の同定に準じて日本から *hilaris* を記録し、2 人とも日本に普通であることを付記していることから推察して、われわれの目にふれない稀種ではなさそうである。1929 年にはじめて日本産ヒメテントウ類の総括的研究を発表した太田勇愛も、同様にコクロヒメテントウに *hilaris* を当てていることは、現在北海道大学に保存されている同氏の同定標本をみても明らかである。また、MADER の大著 *Evidenz der palaearktischen Coccinelliden. . . . , II. Teil* (1955) の中に取り扱った *hilaris* は、真の *hilaris* ではなくコクロヒメテントウに相当するように思われる。筆者が日本産ヒメテントウ族の再検討（当時神谷, 1961）を行なった際、コクロヒメテントウが遠く離れたインド原産の *hilaris* と本当に同じ種なのか気がかりであったが、原記載が簡単すぎるのと、タイプ標本を見る機会が得られなかったため、WEISE や MADER などの世界的規模で多大な業績を残した学者の取扱いを踏襲した。1971 年に発行した筆者の *Fauna Japonica: Coccinellidae* においても、疑問のあることを付記した上で *hilaris* を用いて再記載図示し、日本産近似種との相異を明示した。このように、内外を問わずほとんどすべての研究者は、コクロヒメテントウに *hilaris* をあてていることになる。

前述のように真の *Scymnus hilaris* MOTSCHULSKY が別物だとすると、コクロヒメテントウの学

名を決定する必要がある。1929年に *hilaris* の異常型として記載された *ab. awanus* OHTA は明らかに *infrasubspecific* で命名法上不適格である。ここで問題となるのは *Scymnus (Scymnus) ishidai* M. ARAKI, 1963 である。この種は、腹部第1節腿節線が不完全であることから *Scymnus* 亜属のものとして記載され、その原記載に当たっては *Scymnus (Scymnus) kurohime* MIYATAKE (現在は *Pseudoscymnus* 属) と比較しているが、*Pullus* 亜属であるコクロヒメテントウとの相異についてはまったく言及していない。しかし、先年、中根猛彦博士の手許に保存されているそのタイプ標本を検したところ、まぎれもなくコクロヒメテントウと同一種と判断されたので、*hilaris* の junior synonym として取り扱った (佐々治, 1971)。テントウムシ類の第1腹節腿節線の状態は、しばしば属や亜属の特徴とされるほど重要な形質であるが、ときには種内で不安定なことがあり、とくにコクロヒメテントウでは完全なのが正常 (*Pullus* 亜属の特徴) であるが、まれにその側方が不明瞭または消失し不完全となる個体があり、*ishidai* の記載に用いられた標本はまさにその異常個体の1例であった。このことは数百頭に及ぶ各地の標本を入念に精査した結果得られたものである。ほかにコクロヒメテントウに相当する適格名はないので、*ishidai* M. ARAKI, 1963 が有効名となり、文末のように整理される。

なお、和名については従来どおり「コクロヒメテントウ」と呼ぶのが妥当である。

Scymnus (Pullus) ishidai M. ARAKI, 1963

Scymnus (Scymnus) ishidai M. ARAKI, 1963, Sci. Rep. Kyoto Pref. Univ. (Nat. Sci. & Liv. Sci.), 3: A 252-253 (Type ♂: Kyoto, Japan, preserved in Dr. T. NAKANE's Coll.) (Valid name).

Scymnus hilaris: WEISE, 1879 (*nec* MOTSCHULSKY, 1858), Dtsch. ent. Z., 23: 151 (Japan).
—LEWIS, 1896, Ann. Mag. nat. Hist., (6), 17: 37 (Japan).

Pullus hilaris: OHTA, 1929, Ins. Mats., 4: 8.

Pullus hilaris, ab. awanus OHTA, 1929, Ins. Mats., 4: 8.

Scymnus (Pullus) hilaris: SASAJI, 1971, Fauna Jap.: Cocc.: 144, 175-177 (redescription, etc.), pl. VI-16 (illustration) (Ceylon, Burma and East India should be omitted from the distribution).

主 要 文 献

IABLOKOFF-KHNZORIAN, S. M., 1972. Les types de Coccinellidae de la collection MOTSCHULSKY (Coléoptères: Coccinellidae). *Nouv. Rev. Ent.*, 2: 163-184.

SASAJI, H., 1971. Fauna Japonica: Coccinellidae (Insecta: Coleoptera). 340 pp., 16 col. pls. Tokyo.

(文中に引用した文献の出典はすべて上記2編のいずれかに示されている)。